

# フリーストール牛舎への 砂ベッド導入の取組み

帯広営業所 石田 恵多 辻本牧場（大樹町）

平素より弊社製品をご愛顧頂き、心から厚く御礼申し上げます。今回は北海道の十勝地方南部に位置し、雪印メグミルク(株)の工場があることで知られている大樹町から、「カウコンフォートの向上により、牛も人もゆとりのある経営」を目指す辻本牧場様をご紹介させていただきます。

辻本様は、現在乳牛80頭を飼養して夏季放牧を行っています。家族4人で営農し、草地面積は採草地約40ha、デントコーン約6ha、大根1.7町を作付する複合農家です。

H23年に簡易フリーストール牛舎を建設、乳牛の健康増進と乳量アップを目的として、H25年7月から砂のベッドを導入しました。

## ①何故牛床素材に砂を選んだか

牛床素材に必要な要素は、①クッション性がある ②表面が乾燥し、清潔である ③凹凸が少なく、耐久性がある ④滑りにくいという点です。これらの事を考え、一番良い牛床素材である砂を選びました。

砂の価格は、購入先との距離が近い事もあり、10立米で4万円程度です。麦稈を使用するより安いという点も、砂を選んだ理由です。



写真1. 砂ベッド改造時 深さ



写真2. 砂ベッド改造時 全体図

## ②簡易フリーストール牛床の砂への変更方法

変更前の牛床は火山灰でした。ミニコンボで火山灰を50cm程度掘り起し、34床のベッドを砂に改造しました。

## ③日々のメンテナンス

砂を長持ちさせる為のメンテナンスとして、毎日糞を落とし、レーキもしくは鍬でならします。その際、ベッドが固くなっている部分があればつるはしで壊します。

また、6週間に一度、34床分に対して10立米の砂をバケツで補充しています。作業時間は1回30分以下で終わります。その際、ブリスケットボードより少し手前に、砂を山にしておけば、牛が動くことで自然にならされます。人がならず必要が無く、省力化され、なおかつ砂が通路へ落ちる無駄も少ないです。

## ④留意点

砂ベッドにする際の留意点は、水分が多いと厳寒期に凍る事があり、保管の際はブルーシートをかける等の濡れない工夫が必要です。

また、粘土質が多いと固まる事があるので、粘土質の少ない洗い砂等を選ぶ必要があります。

機械の摩耗は通常より早くなります。通常の敷料と同様に、毎日のベッドメンテナンスは必要となります。砂の処理は、堆肥と一緒に牧草地に撒いています。牧草地への砂の影響は全く気にならないという事でした。

## ⑤砂牛床導入により

辻本様の日々のたゆまぬ努力の結果、課題であった体細胞数は20万以上から10万以下となり、大きく改善されました。乳房炎が減る事で、全頭出荷が多くなり、搾乳の際の乳頭清掃も楽になったようです。

また、寝起きの際にストレスが無いので蹄病も減り、飛節も腫れなくなりました。

快適な牛床により、飼料摂取量が上がリ、横臥時間も増えた事で、乳量も順調に前年対比を大きく上回っています。

一方で、経産牛の事故、周産期病の割合は低下しました。

最後に今回快くインタビューを引き受けて頂いた辻本様に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。少しでもお客様の経営の一助となれるように、邁進して参りますので引き続きご愛顧の程、宜しく願い申し上げます。